

令和元年度 第2回総合教育会議 議事録

日時：令和元年12月5日（木）10：00～12：00

場所：佐世保市役所5階 庁議室

出席者：朝長佐世保市長、西本教育長、中島教育長職務代理者、深町教育委員、合田教育委員、内海教育委員

事務局：田所総務部長、宮嶋総務課長、中島総務課長補佐

渡辺子ども未来部長、須藤子ども未来部次長兼子ども政策課長、花野子ども未来部次長兼子ども育成課長

池田教育次長兼新しい学校推進室長、陣内教育次長兼学校教育課長、友永総合教育センター長兼総合教育センター課長、小田副理事兼社会教育課長、松尾総務課長、吉田学校保健課長、山口文化財課長、嶋田スポーツ振興課長、梶山教育センター所長、坂口図書館長、近藤青少年教育センター所長、熊本総務課長補佐

【議事録】

【松尾総務課長】

定刻になりましたので、ただいまから令和元年度第2回総合教育会議を開催いたします。

皆様におかれましては、大変お忙しい中ご出席を賜り、まことにありがとうございます。教育委員会総務課、松尾でございます。市長に議事進行を行っていただくまでの間、私のほうで進行させていただきます。よろしく願いいたします。

会議に先立ちまして、まず本日お配りしています資料の確認をお願いいたします。A4判の本日会次第、それから、説明資料1点、合計の2点でございます。なお、説明資料については正面のモニターのほうで映し出しますので、そちらもごらんいただきたいと思いますと思っております。

それではここで、会の主宰者であります朝長市長よりご挨拶をいただきたいと思います。

【朝長市長】

皆さん、おはようございます。

本日はお忙しい中にお集まりいただきまして、まことにありがとうございます。また日ごろから本市教育行政の発展に向けご尽力いただいていることに感謝申し上げたいと思っております。また、今日は傍聴席には佐世保市議会議員、

久保先生にもお越しをいただいておりますありがとうございます。十分にお聞きいただけるかと思っておりますので、よろしく願い申し上げます。

総合教育会議では、私の考え方と、そして、また教育委員会の皆様の考え方とを調和させて、有効に活用する場として開催をさせていただいているわけですが、本日は、佐世保市の市立小中学校における望ましい学期制についてということテーマとしたいと思っております。佐世保市では平成18年度から全小中学校及び義務教育学校において学校2学期制を実施しているわけですが、学校学期制のあり方等について、本年8月に佐世保市学校学期制検討委員会から答申が示されたところでございます。答申においては、2学期制実施から一定期間を経て、その成果と課題について検証がなされたところでございます。今回答申を受けて、教育長はじめ、教育委員の皆様のお考えをご披露いただき、議論を進めてまいりたいと思っております。

短い時間ではございますが、次の世代を担う子供たちのため、また今後佐世保の教育のさらなる発展に向け、有意義な会議になりますように、皆様の忌憚のないご意見をいただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

また、今到着されましたが、市会議員の角田先生にも傍聴いただくことになりました。どうぞよろしく願い申し上げます。

以上、終わります。

【松尾総務課長】

ありがとうございました。

それでは、ここから議事に入らせていただきます。ここからは、主宰者であります朝長市長の進行でお願いいたします。

【朝長市長】

それでは、ここから私の進行で会を進めてまいりたいと思っておりますので、よろしく願い申し上げます。

本日のテーマとしては、佐世保市立小中学校における望ましい学期制についての1点を準備いたしております。

それでは、早速、内容の説明を教育委員会事務局からお願いしたいと思います。

【陣内教育次長兼学校教育課長】

教育次長です。

それでは、今、市長のご挨拶にありましたとおり、現在、佐世保市立の義務教育学校を含む全ての小中学校が学校2学期制を導入しておりますが、この学校2学期制が導入されました趣旨、経緯、そして、これまでの実施の効果検証等についてまずご説明申し上げたいと思っております。

発端となりましたのは、佐世保市の教育を考える市民会議による提言でございました。これが当時の提言をまとめたパンフレットでございまして、この提言

の右側でございますが、学校が一人一人の子どもの自信を育み、確かな学力と豊かな人間性を形成する場であるためにとりして、確かな学力を形成する手段として教育カルテの導入などの七つの提言がなされました。その一つが、ゆとりの中で一人一人に学習目的や学習意欲を明確に持たせ、確かな学力の形成を図る学校2学期制の導入でございました。

この提言を受けまして、学校2学期制研究委員会による効果的な導入のための研究、またモデル校における実践研究を経て、平成18年度から全校における全面実施となったものでございます。

その後、平成30年1月22日に、佐世保市学校学期制検討委員会に対しまして、学校教育の改善に努めて10年以上が経過した。この間にはさまざまな変化が発生し、新しい学習指導要領に基づく教育課程の全面実施も目前に迫っている。この機会に2学期制を検証し、今後の望ましい学期制のあり方についてという諮問が出されたところでございます。

この諮問を受けまして、検討委員会のほうでは、主に三つの検証作業が実施されました。

まず1点目は、2学期制研究委員会が2学期制を導入する折に意図した姿が各学校において実現したのかという視点でございました。2学期制の導入に当たっては、学校生活及び学校行事の見直し、長期休業の活用と見直しなどの五つが示されたところでございます。

また、それぞれの学校生活及び学校行事などの一つ一つについて、その下位項目としまして、学校行事の実施時期の見直しや、子どもと向き合う時間の確保など、23の具体的事項が示されたところでございました。

そこで、この23の項目につきまして、市内の全小中学校に対して、効果があったか、やや効果があったか、あまり効果がなかったか、効果がなかったかの4段階で回答を求めた結果がこのグラフとなります。23の全項目を平均しますと、効果があったの回答がおおよそ60%、やや効果があったの回答が30%強という状況でございました。特に始業式や終業式の回数が減されますので、授業時数の増加、また、これに加えて学期末に当たる7月や12月の教育活動が充実したということ。通知表にかえて実施しております個人面談や教育相談が充実したということ。そして、夏休みに実施されるようになった学習教室等が、効果が特に大きかったという回答が示されたところでございます。

続いて、二つ目の検証の視点としましては、保護者には2学期制の成果が認識されたのかとの視点でございました。佐世保市内の全小中学校に在籍する子供さん方の保護者約1万6,000人に対しまして、今後どのような学期制のあり方を望むのかといった意識の調査をさせていただきました。

この円グラフが回答の結果でございますが、3学期制がよいとの回答、左側の

濃いグリーンの部分です。これがおよそ14%。どちらかといえば3学期制がよい、薄いグリーンの部分ですが、ここまでを含みますと、3学期制の肯定が34%でございます。

続いて、2学期制がよいとの回答、濃いブルーの部分でございますが、これがおよそ11%、どちらかといえば2学期制がよい、薄いブルーの部分を含みますと26%という状況でございます。

3学期制を望む主な理由といたしましては、めり張りがあり、気持ちが切りかえやすく、目標が立てやすい。また、通知表が3回来るほうが様子がよくわかるといった理由や、2学期制に違和感がある、2学期制のよさがよくわからない、このようなものが主な理由でございました。

続きまして、2学期制を望む理由としましては、教師の負担が軽減され、それがひいては子供に還元される。この10年間で定着をしてきているのに、変更をすると子供たちに負担がかかる。また、なれていて不満はないといったようなものでございました。

また、どちらでもよいや、わからないという回答も多く、理由としては、どちらにもメリットやデメリットがある。2学期制と3学期制の違いやよさがよくわからない。このようなものが主な理由でございました。

まとめてみますと、3学期制を望む声が大いものの、十分な理解や明確な意思表示、意思形成には至っていないという指摘もあったところでございます。

続きまして、検証の視点の三つ目としましては、学校教育の最終的な願いであります確かな学力、豊かな心、たくましい体が育成されたのかという視点でございました。19年度から30年度におきます本市児童生徒の学力状況を全国と比較した表がこの表でございます。上回った部分に＋マークをつけておりますが、全体的に見ていただきまして、＋マークが大変少ない、決して良好な状況ではないということがこの表から読み取れるところでございます。

続きまして、豊かな心に関してですが、ここにつきましては、ほとんどの項目に＋マークがついております。大変望ましい状況が見てとれるということでございます。

続きまして、これはたくましい体に関してでございますが、運動能力等で特に中学校期においては良好な状況が発生しているということが見てとれるところでございます。

視点3につきまして総じて申し上げますと、豊かな心、たくましい体については比較的良好的な状況が見られるものの、導入の主な目的であった確かな学力についての効果は立証できていないということが検討委員会の答申の中に盛り込まれた中身でございました。

これまで述べましたような状況を踏まえまして、検討委員会からは、2学期制

が望ましい、3学期制が望ましいといった明確な答申は出されず、四つの提言が示されたところでもございました。

一つ目は、学校、家庭、地域の望ましい学期制についての共通認識を持つことが必要であるという提言でもございました。

二つ目は、2学期制のこれまでの実践の成果を生かしつつ、かつ3学期制が本来持つ長所を損なわない学期制を追求していただきたい。これが二つ目の提言でもございました。

三つ目の提言は、児童生徒の丁寧な評価情報を提供するように。この中では、教職員の負担軽減や子供と向き合う時間の減少しないような配慮が必要である。また、学校の評価情報を家庭においても効果的に活用できるような仕組みが必要であるといった具体的なものも盛り込まれたところでもございました。

それから、四つ目は、学期制にかかわらず、全体的な総合的な学校教育の改善という視点もあわせて持っていただきたいというものでございました。

このような四つが今回の提言、答申でもございました。

最後に、全国におきます学校2学期制の実施状況について補足させていただきますが、グラフを見ていただければおわかりのように、おおよそ20%の学校において、現在2学期制が実施されている状況でもございます。新たに2学期制を導入された自治体もありますし、2学期制を3学期制に戻された自治体もあり、全体傾向としてはほぼ横ばい、もしくは若干の減少傾向にあるということが見てとれます。

なお、長崎県内21市町の状況といたしましては、現在、大村市と佐世保市の2市が2学期制を導入しておりますが、大村市さんは令和2年度から2学期制を3学期制に変更されるということを表明されておりますので、その後は本市のみが県内で2学期制を実施している状況ということになっております。

事務局からの説明は以上でもございます。

【朝長市長】

ありがとうございました。教育委員の皆さんもそれぞれのお立場からの思いや、佐世保市における学習のあり方などのお考えというものをお持ちではないかと思えます。委員の皆様のご意見をお聞かせいただきたいと思えます。

まず、学校教育の視点による意見ということで、中島先生。

【中島教育長職務代理者】

失礼します。

今回の件は、いろんな条件が複雑に絡み合った問題で、判断の抛り所も多岐にわたっています。ただ、「2学期制」か「3学期制」かという「枠組み」より、それぞれの「中身」であったり「やり方」、それと「周知」の問題が一番大切な部分ではないかなと考えています。しかしながら、枠組み、これはどうしても避

けられない関門ですので、敢えて先に私の意見を述べさせていただきますと、「2学期制を継続した方がいい」と思っています。

「学校及び保護者アンケート」の詳細、傍聴させていただきました「学期制検討委員会」での意見、その「答申」の全文等、何度も読み返してみました。また、これまでの佐世保市議会での学期制に係る質疑等についての議事録、総合教育会議の記録、そして教育委員会内でも何度か話し合いがありました。その内容等について確認させていただきました。さらに、実際に生の声といいますか、本音の部分幅広く聞きたいと思いましたが、現在の保護者や一般の方々、現場の先生方から幅広い年代層にわたって直接的に、間接的に話をうかがいました。他市や全国の動向等のデータも私なりに収集しまして、多くの関係者の皆様方からいろんな助言をいただきました。

本当に、この1年間、正直なところ、悩み続け、苦しんでいます。ただ、私が「継続した方がいい」といった結論に至ったのは、現場の先生方をはじめ、いろんな方々の声を聞きながら、この継続する、留まるという方向性を覆す決定的な理由付けやエビデンスを見い出せなかったからです。とにかく留まるということも必要じゃないかと考えました。今後は、検証と周知を丁寧にやっていながら、佐世保独自の2学期制、積み上げてきた2学期制の中身をさらに充実していくことが、「子ども達にとっても望ましい」と考えています。

学校は令和の新時代を迎え、今まさに戦後最大の改革と言われる学習指導要領の改訂の最中にあります。教員の働き方改革も多くの課題を抱えています。長崎県独自の大幅な高校入試制度改善計画も出されています。ここ数年の間に、教育改革の畝の中、矢次場に「変革の波」が押し寄せて来ます。

仮に、転換、戻すという方向にするにしても、現実的には難しいと思いますが、「2か3」といった「結論の旗印」を掲げる前に、答申に示された提言等を踏まえながら、まずは、実際に今やっている中身、全市的な取組や各学校でやっているものを整理して、それから枠組をきちんと整えていくという形の方がいいのではないかと考えております。

【朝長市長】

ありがとうございました。

それでは、次に、深町先生、お願いします。

【深町教育委員】

私の子供が通う小学校は2学期制のモデル校になりましたので、私は小学校での2学期制を経験しました。卒業して中学校に進んだときには、もう中学校も2学期制になっておりましたので、中学校、高校と保護者として2学期制を経験しました。

モデル校として2学期制になるときに、教育委員会の方が学校に来られて説

明をされました。2学期制になるとどう変わるのか、どういうところがいいのか、丁寧に説明をいただきましたが、私がそのときに最初に感じたのは、2学期制は学校の先生たちのための制度なんだなという思いが頭に浮かびました。

2学期制になった直後の保護者の声は、終業式もなく夏休みに入って、始業式もなく学校が始まって、何かめり張らないよねという声がやはり一番多かったです。中学生とか高校生は夏休み期間中も部活動などでほぼ毎日学校に行くので、あまり影響はないというか、めり張りに関した部分ではそう感じないのかもしれないけれども、私自身、正直、2学期制は小学校では無理じゃないかなと。中学生、高校生は何とか過ごせても、小学生には向いていないんじゃないかなという思いをそのときは抱いておりました。

ただ、教育委員として学校訪問をさせていただき、現場を見ていく中で、2学期制への感じ方は私は変わってきました。夏休み直前でも学校訪問はできますし、先生方は通知表の作成作業に追われることなく児童生徒に向き合うことができているし、心身ともに先生方は余裕が生まれているなど感じました。

中島委員もおっしゃったように、昨今叫ばれている働き方改革の面からも、先生方にとっては2学期制はプラスなのかなと感じたのが今の気持ちです。

【朝長市長】

ありがとうございました。それでは、合田先生、お願いします。

【合田教育委員】

私は保護者の立場でこの教育委員になってはいますが、最初は、子供たちが小学校に入学して2学期制ということを知ったときに、正直言って戸惑いました。なぜならば、自分自身が経験していない2学期制、しかも長崎からちょうど幼稚園のときにこちらに転居してまいりましたので、どうして佐世保だけ2学期制なんだろうという戸惑いが起きたのが一番最初の印象です。

その後、小学校6年間、息子と娘は過ごしまして、息子は3学期制の中学校に行きました。娘は2学期制の中学校に行きました。二人を比べてみて何が違ったかなと思ったときに、一番思い浮かぶのは、やはり評価の面です。通知表として3回もらった息子と、年間2回だった娘、その違いが一番大きく感じました。ただ、2学期制の中学校で学んだ娘にとっては、学校行事が年間を通してコンスタントにあるというよさが一番2学期制の長所だったかなと、保護者の立場で思いました。

小中学校の前後は、幼稚園も3学期ですし、高校も3学期ですので、子供にとってはその接続上の戸惑いが大きかったのではないかなと推測します。

子供たちに最近聞きました。2学期制と3学期制、どっちがいいかなと言ったら、2学期制しか経験のない娘は、3学期制の高校に行って、テストの多かけん、嫌と言いました。なるほど、そういう意見かと思いました。3学期制の中学校に

行った上の子に聞きますと、学期は何の関係もないよと言いました。かえって、今、4ターム制の大学に行っておりますけれども、4タームは厳しいねと。やっぱり2学期か3学期、どっちかだろうなどの確な意見をもらったところです。

周りの保護者の意見を聞いてみました。佐世保は転勤族が非常に多うございます。また、若い世代が家を建てて転居に伴う学校の転校ですね。こういったものも大変多うございますけれども、夏休みに転居して、転校をしてしまったときに、佐世保から佐世保市外に出してしまうと、通知表が4月から12月までもらえないと。それが一番佐世保にいて後悔したことだったという意見も何人かの保護者からもらいました。

そして、私たち世代の保護者になると、もう2学期制のすっかり浸透しているので、正直なところ、学期制はこだわらなくていいんじゃないかなという意見が大変多うございますが、やはり小学校の1、2年生の保護者さんに聞いてみますと、何で佐世保だけ2学期制？ これは教育委員になってから7年間、毎年聞かれた意見でございます。

ただ、2学期制で一番よかったのが夏休みの面談でございました。通知表にも書かれていない所感の部分が先生方から直接聞いたこと。また、佐世保市が独自に取り組んでおります心の教育、それに伴う i - c h e c k の結果に関しまして、事細かに先生方からアドバイスをいただけたこと。これは2学期制導入に伴う心の教育相談活動ですね、これが取り入れられたことが保護者の立場としては2学期制で感謝したところです。

ただ、中島委員も深町委員もおっしゃったように、学期制という枠組みよりも、先生方がどうやったら一番子供にかかわりやすい環境になって、そして、先生のそういった環境が子供の成長に直接関係するところでもありますので、そういった現場の声というものをもう少し深く聞いて検証を進めてから結論を出したいなというのが今の私の率直な意見でございます。

以上です。

【朝長市長】

ありがとうございました。

それでは、内海委員、お願いします。

【内海教育委員】

今回のことを取り組むときに経営者の立場でまず考えたのは、私は常に前に進むという考え方を持っておるのですが、一歩ちょっと踏みとどまって、この2学期、3学期を考える。何でだろうと。前に進むのに、こういうことに時間を割いていいんだろうかということをもまず疑問に思いました。

答申書を読んでもよくわかりませんでした。結局、2学期もいいよねと。しかし、3学期も実はいいところがあるんだよね。だったら、2学期制、3学期制と

振り分けるのではなくて、何かもう一つ前に進む新しい学期制度というのがないんだろうかということを考えて、まず戻ってみました。

2006年なんですね。平成とか令和でいくと年数の感覚がぴんとこないの、西暦で言わせていただきたいのですが、2006年、私が56歳、2019年、今、69歳、13年、社会の変化がどれほどまで進んでいるだろうかと思うと、とてつもなくすごい勢いで進んでいると思うのですね。

例えば、実は昨日まで私は海外に行っていたのですが、昔、2006年当時はパソコンを持ち歩いて、ホテルであったり、いろんなところでアクセスして、会社とのコミュニケーションを交わして、電話で済むじゃないか、ファクスで済むじゃないかといっても、データのやりとりというのはパソコンでしかできなかった。ところが、今回はパソコンは要りません。このスマホで365日、24時間、どこにいてもつながって、追っかけられて心が安まらないんですけども、そのくらいに変化しているというのと。

実は最後に泊まったホテルは、驚くなかれ、エレベーターの中に入ったらボタンがないのですよ。何階に行くというボタンがない。なぜか。部屋のカード、これに乗るときにピッと差して、それでその階にしか行けない。エレベーターにボタンがないというすごいカルチャーショックを受けながら、そのぐらいの勢いで変化しているのであれば、子供の教育のあり方、変わっちゃいけないところと、変わらなければいけないことの中に、やっぱりiPadを導入して教育しているところが日本の中にもたくさんあります。あれがあることで、実は子供たちにもっといい教育ができるかもしれない。逆に先生方がもっと楽に仕事ができるようになるかもしれない。そういう意味で、この2学期、3学期を考えると、単に学生だけじゃなくて、決められたカリキュラムプラスアルファの佐世保独自のカリキュラムというのをできるのではないか。

働き方改革という切り口からいくと、いや、3学期にすると、先生方に負担がかかりそうだ。じゃなくて、3学期になったとしても、働き方改革はいろんな取り組みをデジタルでやることで画期的にできるんじゃないか。ただ、そういうことをやらないと、先生方は、私も学校訪問に行くと若い先生方とベテランの先生方の違いを感じます。ベテランの先生方の味のある授業なんですけど、デジタルについてはついていないというのをすごく感じるのですね。だから、昔のやり方でやると、いや、時間が足りない、残業しないとイケない。

変化するためには、やっぱり思い切った改革、それが新3学期制かもしれないなと思いました。先生方に聞くと、変化することって大変だと、今だけでも大変なのにと思われるかもしれませんが、刺激がないと、改善、解決はできないんじゃないかな。それでひょっとしたらすごいことができるかもしれないなということを感じながら、自分1人、そうさそうさ、新学期制、新3学期、これ

もいいんじゃないかな。いや、2学期のいいところも持ってこよう、昔の3学期のいいところも持ってこよう、これをミックスしてブレンドしたらすごいのができるんじゃないかなとわくわくしながら帰りの飛行機の中で考えてまいりました。

以上です。

【朝長市長】

ありがとうございました。

それでは、西本教育長、今のご意見もお聞きされながら、教育長としてのお考えを聞かせていただけますか。

【西本教育長】

私も4年目になりまして、各学校訪問等々をさせていただきました。今回の学期制についても、昨年度から8回にわたってそれぞれ検討委員会で検討していただきました。そういうさまざまな方のご意見を聞く、そういったときの中の私の印象ですけれども、まず、私の立場としては、いろんな方の感想とか印象とか、そういったことも当然に大事だと思っておりますが、厳密にこの2学期制が導入したときの目的がきちんと果たされているかという、エビデンスも含めて厳しい検証をやっぱりやらないといけないという立場にあるのかなと思っております。

そういう意味で、今回、保護者の意見の中で、10%ほど3学期制がいいと、どちらかというところ3学期制がいいという、この上回っている、その理由と伺いますか、それが何かというところ、めり張りと言うとあれですけれども、通知表をいただけたというところがかなり多かったと思います。それは、保護者は子供のことを知りたいと、もっとよく知りたい、学校でどういうことをしているのか知りたいという欲求が大きいのがこの10%に出てきているのかなと思っております。確かに夏休み前には面談をやっていらっしゃいます。そういう意味では生の声を先生から直接に聞くという、非常にかえがたい制度だと私は思っていますし、ほんとうにいい制度だと思います。

ところが、紙でもらわないと、そこで面談をした方、あるいは家庭訪問に行つて直接聞いたそのことをほかの家族にどう伝えているのかなと、ちょっと不安もこの保護者の意見の中にあるのではないかと思います。

それから、何より学力です。必ずしも学期制と学力との相関関係があるとは言いきれないと、答申の中でも言われておりますが、実はこの導入したときの経過の中で、学力のことについても確かに不安があるということの中で、リーフレットを当時つくってございまして、学力低下につながりませんかというクエスチョンの答えとしては、心配ありませんと。むしろ学力向上に向けた取り組みと言えましようとして書いてございました。それを見ると、そのときに、そのことだけを捉

えて言うのではなくて、心の問題、体の問題に重点を置ければよかったです、そのことを前面に出されたときに、先ほどの資料の中にあった、結果が何を物語るかということについては、やっぱり厳しく捉えなければならないのかなと思います。

それから、少し長くなりますけれども、新学習指導要領が今度始まります。その中で言われているのは、何を学ぶのかという今までの観点ではなくて、どのように学ぶのか、あるいは何ができるようになるかということが重視されています。いわゆるアクティブラーニングという視点です。これは主体的、対話的で深い学びという実現が求められていると私は思っているのですが。

今までの何ができるようになるかの視点から、新しい学習指導要領で示される、児童生徒が身につけるべき資質、能力の定着を検証していくという中で、学期や単元といったものの終了時に行う総括的な評価、いわゆる通知表ということもあるでしょうけれども、総括的な評価に加えて、学習の指導の中で、それまでの指導のやり方の内容の定着状況を評価する、そういった形成的な評価というものがより重要になってくるのではないかと思います。

先生たちは適宜、その形成的な評価を行いながら、自分たちの授業のやり方がほんとうに子供たちにきちんと伝わっているのか、今のやり方でいいのかということを実体的に評価を行う、補充的な指導を行う、そういったことを学びの場において絶えず高めていくことが必要ではないかと思っております。そうした場合には、2学期という大きなくくりがいいのか、あるいは1年間というくくりの中で、それを短いスパンで適宜評価をしていくというのがいいのか。やっぱりそこに私たちはいま一つ、目を向けるべきではないかなと思っております。

ですから、単に2学期がいい、3学期がいいということではなくて、やっぱり学習能力を高めるためには、短いスパンでの評価ということが要ると思っております。そういった中では、先生たちがより短いスパンで学習指導、あるいは評価を行うということが、子供にとっても、あるいは保護者にとっても、定着や達成の状況、度合いといったものを認識する機会が増えるということを考えますと、長期休業の前に子供の状況が、面接した人だけではなくて、家族のみんなに伝わって、家族が子供たちを育てる、そういったきちんとした評価を紙ベースで残しておく。紙ベースとは限りませんが、先生の意見を残しておく、そういう機会が必要なのではないかと思います。

したがって、今ある2学期制のままでいくということは、もう考えられない。しかし、昔の3学期制に戻ることも考えられないと私は思っています。ここは一番、10年間の制度を振りかえるときに、どういった制度でも制度疲労というのがありますので、見直すいい機会を与えていただいて、これからの望ましい学習がどうあるべきかということについては厳しく問い直し、先ほど内海委員も言

われたように、答申もそうでしたけれども、P D C Aをしっかりと捉えるような学期制を構築していくべきだと私は思っております。

以上です。

【朝長市長】

ありがとうございました。

それぞれにご意見をいただきましてありがとうございました。それぞれのお立場から、これまでのご経験や、あるいはこれからのことも含めてご意見をいただいたと思っています。それぞれ考え方もあろうかと思えますし、また、今までのご経験の中で、2学期制がいいよというご意見もございました。また3学期制もいいよと、あるいは新3学期制という議論も出てまいりました。非常に委員の皆さんたちがそれぞれにお考えいただいて、そして、また現場の声、あるいは保護者の皆さん方のお声というものをお聞きいただきながらご意見を言っていたということではないかと思っております。

私の考え方というものを申し述べさせていただきますと、私はもうはっきり言って2学期制は全くわからない世代でございます。3学期制しか経験をしていないということなので、古い3学期制ということしか自分の頭になかったのですが、今お話をお聞きしながら、なるほどね、2学期制のよさと3学期制のよさ、それをミックスしたところで新しい3学期制のあり方というのがあるのかなということを感じさせていただきました。

それと、やはり日本の風土に2学期制が合うのかどうかということですね。2学期制を導入するか、しないかというお話、議論が十数年前、20年近く前からあったと思いますよね。そのときには、海外は2学期制だという、それが主流だということが一つあったのではないかと思っております。

ただ、海外と日本の違いというのが、年度の違いなのですね。日本は4月から新しい年度が始まる。そして、他の国は7月から新しい年度が始まるというところが多いですね。学校は夏休みの7月、8月を休んで、そして9月から新しい年度、学期なりが始まるということだと思っております。そして、2学期制ということで他国はそういう形でやっておりますので、何となくそれが当たり前になっているんじゃないかと思いますが、日本の場合には4月から始まって、そして、夏休みを越え、夏休みをひとくくりにして、そして夏休みが終わってから2学期が始まり、冬休みが終わって3学期というようなことで、一つ一つ節目があったような感じがするのです。それで、その中に2学期制を取り入れたということで、間に夏休みが入ってしまうと、前期に夏休みが入ってしまうということですよ。そこが非常に難しいところかなという感じを持ちました。

そして、また、10月に前期、後期ということで変わるわけでしょうけど、そういうときにあまりにも時間が、区切りがないというのでしょうか、数日しか

いというような問題もあるような感じもしますし、この日本の風土に合うのかな、合わないのかなというのが、2学期制は非常にいいと思うのですが、やはりそこが日本の風土に合うのかな、合わないのかなという感じを思っております。

それで、特に日本の風土に合わないということの中で感じられるのが、先ほど申し上げましたように、その年度の壁というものをどうするのかということが基本的にあるのかなと思っております。

それから、これが普及しなかったということが、先ほど表にもございましたが、一時、20%までぱんといつた。そして、それからどんどん動きがなかったということですね。それがほんとうによければ、おそらくこれは50%、70%、80%ということで、全国的に広がりがあったのではないかと思いますけど、その広がりがなかったということは、やはりそこに決定的なプラス要因というものがなかったのかなという感じを思っています。

そういうことから考えると、やはり、今、長崎県の中でも最終的には佐世保市だけが残るといようなことになった場合に、それは先生が広域で転勤をされるというようにもございましょうし、また、子供さんたちの転校というようにも考えたときに、佐世保だけがそういう形で2学期制でいいのかなということとは感じるどころです。

ですから、結論から言いますと、内海委員、西本教育長がおっしゃったように、新しい3学期制をどういう形で模索していくかということに尽きるのかなという感じがいたしますので、それを求めていくということを考えてらどうかと、私は今日のご意見もお聞きしながら、そして、これまで自分の考え方も、どちらかというところ3学期制がいいなと思ったのですが、過去の3学期制ではだめだということ、それもよくわかりましたので、新しい3学期制をどういう形で模索するかということ、それについての検討を進めるべきじゃないかなということを感じましたので、私の意見としてお話をさせていただきました。

それでは、それぞれまたご意見をいただきたいと思えます。今、それぞれの先生方からご意見をいただいたわけで、私も申し上げました。その中でさらにご意見がございましたら、それぞれの先生のほうからご意見をいただければと思います。深町先生。

【深町教育委員】

学期制検討委員会は8回開催されましたが、私はそのうち5回ほど参加させていただきました。最初のほうは、ほんとうに委員の皆様からほとんど意見が出なくて、この会はどう進んでいくのだろうという、ちょっと不安がありました。そういった中、皆さん、努力されて、だんだんと回を重ねていく中で、少しずつ意見も出てきましたけれども、最終的に出された答申案を見て、ちょっと私も頭

を抱えてしまいました。

大村市ははっきりと3学期制に戻すという結論が出ていたのですけれども、佐世保市の場合はどちらでもよいという形になったので、どちらでもよいと言われたら、私たちがこの教育委員会の中で結論を出さなきゃいけないんだろかと思って不安になりましたし、もし3学期制、2学期制、どちらかの結論が出たら、そちらに向けて私たちは前向きに話し合っていたのですけれども、それが出されなかったのが、もう非常に、ちょっと私としては残念だなと思いますし、思ったような形ではなかったなということを感じたのが一つあります。

それと、市長さんが、やっぱり皆さんの中に2学期制がどれだけ周知、浸透したのかというのと、全国的に広がりを見せなかったのは何らかの理由があったからじゃないかとおっしゃいましたけど、私もそれを感じておりますし、10月に社会教育委員の方々との意見交換会があったんですよね。そのときにイワサキ委員長さんが、近所のお年寄りが下校中の子供たちを見て、何で今日は子供たちの早う帰りよつと尋ねられたそうです。それは後期の始業式の日だったので、その質問を受けたイワサキ先生は、2学期制というのがまだ浸透していないし、市民に周知されていないなということを感じたとおっしゃったんですよね。

私もその辺は感じました。保護者はどちらでもよいと思っているのですけれども、3学期制しか経験していない親世代と、それからお年寄りにとっては、2学期制という制度はやっぱり違和感があって、何となくまだ受け入れられない部分があるのかなと思いましたし、この2学期制、学期制検討委員会が立ち上がった後、私たちも勉強しなくちゃいけないということで、改めて勉強し直し、視察にも行きましたけれども。視察に行った後、また何回もこの教育委員会で論議しました、検討しました。

その中で私がちょっとショックだったのは、以前、高校も2学期制だったんですけど、今は全ての高校が3学期制に戻っているというのを聞いて、ちょっと愕然として、市長さんがおっしゃったように、県内で大村も3学期制に戻った場合、佐世保市だけが2学期制のままでいいのだろうか。高校も全部3学期制であるといったときに、果たしてこの今のままの2学期制で佐世保市はいいのかなという疑問を感じました。

以上です。

【朝長市長】

ありがとうございました。ほかにご意見ございませんか。どうぞ。

【合田教育委員】

ほんとうに深町委員さんがおっしゃったように、学期制というところを一番に持ってきて論議するには、あまりにも深い問題だったので、ほんとうに私たちみんなで悩みました。私自身もほんとうにいろんな考えがあります。市長さんが

節目という言葉をおっしゃいました。私もそれは一番感じます。日本には昔から仕切り直しという言葉があります。やはり3学期制のときの一番のよさは、年に3回通知表がもらえること。さっき教育長が家族にも周知すると、その媒体として有効ではないかとおっしゃいましたが、家族というよりも、本人が通知表を手にしたときに、あ、自分にはこの課題があるんだということをリフレクションするというのが一番だと思うんですよ。親から、面談で先生がこう言っていたよというのじゃなくて、本人が通知表を目にして、リフレクション、自己内省するという、そこが一番大きな通知表の意味かなと私は捉えています。

2学期制が導入されたときに時間のゆとりということが掲げられていましたけれども、結局は、私の子供たちが通った小学校、中学校は、始業式、終業式の後も夕方まで授業がございました。ですから、いつもジャージを着ている先生が始業式や終業式でスーツとかを着られて、ぴしっと何となくそこで仕切り直しをして、さあ、長期休暇に入って頑張ろうという気持ちの切りかえが、始業式、終業式があるんだけど、また授業があつて、そして長期休暇があつて、次の日は1日のまた授業があつて、私たち大人でも3連休の後の勤務でも、ああ、嫌だなと思うのに、子供たちにとっては長い夏休みの後にすぐ1日の学校、そして始業式の後もまた学校がある、授業がある。これは子供たちにとって仕切り直しにはならなかったんじゃないかなという思いがあります。

2学期制を全て否定はしたくありません。私としてはですね。なぜならば、私の子供たちは佐世保市立の小学校、中学校で2学期制の中で義務教育を受けてまいりました。ですから、ここで2学期制がだめだったから3学期制にするとすると、何となく子育てを否定されたような気がいたします。ですから、2学期制は2学期制の評価をきちんと、いいところを認めて、それは必ず新学期制にも、新3学期制にも続けたい。この思いは強くあります。やはり公教育の責務というのはとても大きいので、今から、え？ 何でうちの子たちのときに3学期じゃなかったのという市民の声が聞こえないように、そういった検証をして、新しい3学期制に持っていくのが一番かなと思います。

時間の確保に関しましては、市長の采配でエアコンがつけました。来年から稼働予定ですが、ぜひエアコンを活用して、例えば夏季休暇を5日ごとでもちょっと短縮をして新3学期制に入っていくとか、8月の末から学校給食も提供するであるとか、そういった細かいところの検討をして、そして2学期のよさ、体験授業の多さとか、バランスのとれた行事の運営とか、教育相談活動とかを生かして新3学期制に取り組んでいけたらなと、保護者の立場では思ったところ です。

以上です。

【朝長市長】

ありがとうございました。内海委員、ご意見はございますか。

【内海教育委員】

確かな学力、豊かな心、たくましい体を目指すために取り組んだことの結果が
答申書の中にもあったのですが、私は思うんですけど、先生方、保護者、しか
し、もっと子供たちが中心にいないといけないんじゃないかなと。通知表も、通
知表は誰のためにあるんだろうかと思うと、ほんとうは子供のためだと思うの
ですね。ところが、私は自分が小さいときどうだったかという、この通知表を
親に見せられんばいとですね。その科目がとっても悪い成績を出しとったとき
に、その先生が嫌いだったんですよ。だから、その先生の授業はもうほとんど私
の頭の中に入っていない。

それを考えると、ほんとうに先生方が子供たちから尊敬されるような人間性
の、ただ自分が教えることよりも、人間としての魅力をもっともって磨くこと、
その結果、その子供たちが興味を持って、その先生の授業がとてもおもしろくて、
結果それが将来の自分の職業につながるきっかけになるかもしれない。そうい
う子供たちにたくさんの夢であったり目標を与える、そういう授業をやってほ
しいし、その結果、プロセスとして、通知表がやっぱりないといけないと思うの
ですね。

会社でいうと、私どもは1年に1回、決算をやります。じゃあ、1年に1回、
決算をやればいいのか。とんでもないですね。毎月決算をやります。12カ月決算
を毎月やって、とにかく悪かったら手を打たないといけない。そういう必死の思
いでやっている。子供たちには必死の思いは必要ないけども、何か夢を与えて、
その夢に対して、今、進捗としてはこういう状況だよというのを教えてあげる。
それが1年に2回よりも1年に3回のほうがいいし、4回となると、今度また大
変かもしれませんので。何か通知表も、通知表って言葉がよくないですね。何か
もっと子供たちにわくわくさせるようなものがあって。比較するというよりも、
半年前の自分、何カ月前の自分よりも、あ、成長しているという手応えを感じる
ようなものがあたらどうなのかなと思いました。

それから、セレモニーの話があって、簡素化できることは徹底的にやっぱり簡
素化して、子供たちに向ける時間、そういうのを変化、改革というのをしていっ
たら、何か佐世保の子供たちは伸び伸びして、一歩外に出てもグローバルに活躍
できる、そういう基礎学力を持った子供たちが誕生したらいいなと思って、いや
あ、そういう時代に私も生まれたかったなというのを感じながらいました。それ
が全てのエネルギーを子供たちにもっともって向けていく、そういうバックボ
ーンを佐世保市の教育委員会の中でつくっていただければうれしいなと
思いました。

以上です。

【朝長市長】

ありがとうございました。

【中島教育長職務代理者】

私自身も教員上がりですので、2学期制の方がいいという部分があると思っています。実際、学校の先生たち等の声はおのずと入ってきますので、意図的に、先ほど話をしましたように、一般の方々であったりとか、保護者であったりとか、幅広い年代層から、何百人か、間接的には何千人の方々に、実際のところ、どういうふうに感じておられるのかなというところを、もちろん現在の私の立場は伏せて、聞いてみました。

やっぱり現場の先生たちは、子ども達と日々向き合っていますので、それぞれの違いというのはよくおわかりなのですけれども、実際のアンケートにも数字や記述内容にその「濃さ」が出ていたと思いました。そこには、10数年前に入ってきた、当時は全国でも珍しかった2学期制に対して、かなり混乱して苦しんでやってきた経験もあると感じます。ただ、今は自分たちで積み上げてきた佐世保の2学期制に対する「自負心」であるとか「思い入れ」というのは強くあると思います。今回のアンケートでも、93%が2学期制の効果を実感おられます。「学校生活及び学校行事」「学習指導と評価」「長期休業の活用と見直し」等、5つの観点の全ての平均値が90%を超えています。ただ、今この件についての議論の経過等が新聞等で報道されていますので、これまで自分たちがやってきた取組が評価されるという期待や不安感等が交錯して緊張した雰囲気も感じます。

一方で、保護者の皆さんからもアンケートの記述と同様の意見を聞くことが多かったですが、総じて若い年代層の保護者の方ほど学期制にはこだわりがないように感じました。「わからない、どちらでもいい。子ども達が楽しい学校生活を送ってくれることが一番大事なんじゃないかと、そういった意味で、先生たちの負担が少ないのであれば、今のままだでもいい」と言われるのをよく耳にしました。むしろ、3学期制に戻ることにについては、「うーん、今ですか？」という意見等も多く聞きました。一方で、3学期のいいところとして一番多く挙げられたのは通知票の回数が増えるということでした。

いずれにせよ、佐世保には佐世保市独自のいろんな歴史等もあります。準備期間を経て数年後にスタートするにせよ、決まった瞬間から負担感は募っていきます。このタイミングで変えるのはどうなのかなという多くの方々の疑問や不安は払拭できないと思います。

以上です。

【朝長市長】

教育長。

【西本教育長】

皆さんのご意見をお聞きする中で、2学期制がだめだという意見はないと思うんですね。それはもう保護者ももちろんですけども、一番何より学校の先生が2学期制のよさというのはよくわかっていらっしゃる。ですから、それを否定するものではないと思います。ですから、よさは生かしながらと、また新たな意見としては、やっぱり短いスパンで評価をしてほしいということが大きな意見の流れかなと思っています。

今なぜここで見直すのかという意見も出ましたが、私は、今やらないと、やる時がないかと思っています。学習指導要領も大体10年スパンで見直しをされて変わってきますし、例えば京都市あたりも、ちょうど我々が導入をしようとするときに2学期制の先進都市でした。それが30年度、3学期に戻りました。やっぱりある意味、それは新学習指導要領に合わせた中での制度の見直しをやるかという考えではなかったかと思っています。

ですから、今、2学期制のよさをそのままどう取り込みながら、新しい方法、あるいは変わっていくという、そういった気持ちの転換点が今ではないかなと思っていますので、そういう意味では、今のままで長崎県で一つだけ、1市だけ踏みとどまっていくということでもいいのかどうなのか。やっぱり県内どこに行っても3学期制ということの中での責任といたしますか、それを説明する責任が我々にはあるかと思っています。したがって、2学期制のそのままいくというときに、なぜ2学期制でいくのかということはどう説明していくのかということも必要になってまいりますので、私は今の時期にしっかりと見直して、3学期になるなら3学期になる、その意味合い、説明をし、2学期で踏みとどまるなら、2学期で踏みとどまるだけの何かの説明を市民の皆さんにする必要があるかと思っています。だから、先ほど言ったように、私自身としては、その見直しの中で一定の新しい佐世保の学期制のあり方を決めていく時期に来ているかと思っています。

それから、訂正をさせていただきます。深町委員さん、市内の高校、私がちょっとデータを示したのですが、西高はまだ2学期だそうです。けさ、確認をしました。南校は3学期に戻ったそうですけれども。申しわけございませんでした。

そういう考えであります。

【朝長市長】

それぞれ2回目のご意見もいただきました。私がここでまとめるというのは非常に難しいかと思っていますので、今日、教育委員会として、そしてまた私の意見も皆様に聞いていただいたかと思っています。あとは、新しい3学期という方向性というのがあるのかなのか、そこを、今日の意見も聞かれました、教育委員会のほうで検討していただくということが必要ではないかなと思っています。

やはり長崎県内での他市との関係ということ。これは私は非常に重要なことではないかなと思っています。本来、教育というのは、形としては一律であつ

たほうがいいのかなどという感じがいたしております。特に次に高校教育、あるいは大学教育というようなことも含めまして、流れの中で一定のものがやはり継続する仕方がスムーズにいく、そういうやり方のほうがいいのかという感じがいたしますので、ぜひその辺を含めて検討していただくことができればと思っております。

今日はそれぞれご意見をいただきまして、ほんとうにありがとうございました。大変有意義な議論が展開できたのではないかなと思っております。

それでは、時間もまだ少しあるのかもしれませんが、ほかにご意見がないようでしたら、ここで一旦締めたいと思いますが、いかがですか。よろしゅうございますか。

【全委員】

はい。

【朝長市長】

これだけはもうちょっと言いたいということがございましたら、ぜひつけ加えていただければと思いますけど。どうぞ。

【中島教育長職務代理者】

話がまとまりそうな中で、また言えば混乱させて申し分けないのですが、一番反省するところは、やっぱり「2学期制の良さ」というのを発信できてなかったこと、これが一番の問題だったと思います。

学校現場は、これまで地道にやってきたという達成感や充実感があって、続けることが「当たり前、子ども達にもいい」と大半の先生方が信じていると思います。ただ、そのことを学校から保護者や地域の方々に検証結果として積極的に発信してこなかった結果、理解が不十分であったり、不安を抱かせたのではないかと、あらためて感じています。

正直、私自身も良き3学期制で育った人間ですので、当初は2学期制というのは非常に抵抗感や違和感がありました。

ただ、佐世保に戻ってきて、2学期制の学校に勤めて、結構いいなと実感しました。「あっ、こんなものなのか」と。特に、7月と12月の先生たちの動きが全然違いました。確かに通知表というのが大きな課題で、私も通知表はもっとたくさん出した方がいいと思っています。短いスパンで評価をする方が子ども達の学習効果は上がります。ただ、通知表を出すためには、その前に評価のためのテスト、成績処理、所見作成等、結構な事務量です。また、中学校では技術家庭科等の技能教科は週に1時間で実技試験も必要です。4月と5月はたくさんの行事がありますので、授業時数が僅かしか取れません。そこで評価や評定をしなければならぬという厳しさというのがあります。加えて、佐世保市は独自に6月に「いのちを見つめる強調月間」がありますので、戻した場合、少なからず影

響が出てくると思います。

ただ、通知表は紙ベースで残りますので、家族で一緒に見たりでき、僕はすごく意義があると思うし、大切にしたいと思っています。保護者の「2回より3回がいい」といった意見が多いのも当然だと思います。ただ、実際に所見は、生活面、学習面、総合所見の項目ごとに書き、学校により多少差異がありますが、それぞれ大体100字から200字位でしょうか。実際に良いところや励ましの言葉等を中心に書きますが、やっぱり一方通行です。

一方で、面談の一番いいところは、実際に数字で表せない部分とか文章にはできにくいこと等を個々に双方向でできるというところでないでしょうか。2学期制では面談の準備を7月にして、ゆっくりとした夏休み期間中にやりますので、特に中学校の進路指導とかの微妙な部分をこの時期に個別的に「三者」でできるというのは大きいと思いますし、保護者からも「すごく助かっています」といった声をよく聞きました。

いずれにせよ、通知表も面談もそれぞれ大切な役割がありますので、学期制にかかわらず、両方の良さが生きる取組ができればと考えています。

また、学校行事の組み方にも大きな影響が出てくると思います。

例えば、今回の本市議会でも質問が出ていますが、県では「世知原の青少年の家」の検討に入ります。最近では本市の小・中学校の半数以上が世知原を野外宿泊学習として使っていますが、仮に世知原がなくなると、実質的にこれらの学校が烏帽子岳の「青少年の天地」に集まることになります。このことについて烏帽子の所長さん等から話を聞く機会がありましたが、「かなり厳しいですね。さらに、3学期制になると7月や9月に入れられないので日程を確保するのが無理じゃないですか。」ということでした。

こうした「中身」を、先程言ったように、「枠組み」よりも今やっていることを精査することが先ずは必要だと思います。今は2つに区切ってやっていますので、「自由度」は大きいです。3つにするととなると、言うなれば、1メートルの箱の中に30cm、30センチに分けないといけなくなる。今、50cmずつに分かれているもの、その50cmの棒を泣く泣く切っていくと収まらない。やっぱり、選択の幅が制限されますので、大きな行事が偏り圧迫されて、それが子ども達にとっても大きな負担にもなるし、厳しいところかなと思っています。「自由度」は大きいと考えます。

今は、「とどまる勇気」も大事、「とどまること」が大切だと信じて、僕はこだわっていきたいと思っています。失礼しました。

【朝長市長】

ありがとうございました。中島先生の思いというのがよく理解できます。これまでやっぱり教師として、また管理者として、また教育委員になったということ、

両面からご理解をいただいたと思うのですよね。そういう中でのご意見だと思いますので、今日の意見を総合的に教育長としては、教育委員会としては捉えていただきながら、そして模索をしていただくと、新しい形をどうつくるのかということ、それを考えていただくこと、その日ごろの意見の集約ということにしていればいいんじゃないかなと私は思っております。

そして、また、次の機会の方針を出されると思いますので、この教育総合会議でもそういったものについて、またそれぞれ意見も尊重するというのも必要ではないかなと思っておりますので、ぜひ今日のそれぞれのご意見を大事にしながらか新しいものをつくっていただければと思っております。

ほかにご意見がないようでございましたらこれで終わりたいと思いますが、ございませぬ。

【全委員】

ありません。

【朝長市長】

それでは、ここで、深町委員が12月22日をもって任期満了となります。任期8年、ほんとうにお疲れさまでございました。深町委員から最後に一言お願いできますでしょうか。よろしく申し上げます。

【深町教育委員】

8年間お世話になりました。ありがとうございます。あつという間の8年間でもございました。1主婦、1母親として、子育てとPTA活動、地域のボランティア活動しかしていなかった私に、もう子育てがそろそろ終わるなというときにいただいた教育委員という職、ほんとうに私の青天のへきれきでしたけれども、努めさせていただいたこと、感謝しております。私自身の勉強になりましたし、ほんとうに第2の人生を歩ませていただいたなと思っております。

8年間で感じたことは、佐世保市の中身が大きく変わってきたなということです。まず思ったのは、図書館と美術館がとてもいい方向に向かったというか、市民のニーズに応えた形に変わっていったなと、楽しい図書館、楽しい美術館になったなと思っております。それから、総合教育センターの存在も大きいなと思っております。先生方のスキルアップ、もうほんとうに頑張っておられるなと感じました。保護者としてだけしか学校を見ていなかった私が、学校訪問をさせていただく中で、先生の立場から、また行政の立場から学校を見ることができたというのはほんとうに大きな私自身の勉強になりました。

これからは教育委員会を外側から支えさせていただき、また、地域の一員として、佐世保市民として、地域ボランティア等に励みたいと思います。8年間ありがとうございました。

【朝長市長】

深町委員、どうもありがとうございました。本来であれば任期、3期、4期ということでお願いをしたところではあるのですが、しかし、私の考え方というのが、2期でということで、これまでも教育委員さん、ほかの皆さんもそうですが、そこで次の方にお譲りいただきたいという考え方を基本的に持っておりますので、ちょっと残念だなという気持ちはあるのですが、今回そういうことでご理解をいただきまして、ほんとうにありがとうございました。今後もぜひ、今おっしゃったように、外の立場からということだと思いますが、外の立場というよりも、もっともっと近い存在でもって私どもにご意見をいただくことができると思っておりますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。

また、佐世保市の中にはほかの審議会とか委員会とか、そういうものもございますので、そういうところでまたお願いをすることもあろうかと思えます。女性の皆さんのご意見を言っていただく方が今非常に少ないということもございまして、そういう意味では、深町先生のすばらしい知見、そしてまたご意見、そういうものを生かすということも必要ではないかと思っておりますので、そういうことをお願いするときには、またお引き受けをいただければと思いますので、よろしくお願いを申し上げます。ほんとうにありがとうございました。

皆様におかれましては、大変お忙しい中にお集まりいただきまして、まことにありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、第2回の総合教育会議を終了いたしたいと思えます。ほんとうにありがとうございました。お疲れさまでした。

----- 了 -----